

2014年3月

76号

平成26年3月15日発行

CAPNA

ニュースレター

発行 (認定) NPO 法人
CAPNA (子どもの虐待
防止ネットワーク)
事務局 〒460-0002 名古屋市
中区丸の内1-4-404
Tel:052-232-2880
印刷 常川印刷株式会社

信州大会に参加して

CAPNA 理事長 兼田智彦

信州大会では二つの分科会を企画運営しました。一つは「子育て虐待防止の電話相談・メール相談分科会」で、もう一つは「民間団体フォーラム」でした。

CAPNA が事務局を務める日本子どもの虐待防止民間ネットワークではナビダイヤル：0570-011-077による「全国 子育て・虐待防止ホットライン」を行っており、大阪の児童虐待防止協会が1990年に電話相談を開始して以来継続しています。また、2009年からはメール相談も行っています。これらの電話相談メール相談はそれぞれ相談員研修や相談のノウハウの蓄積があります。

毎年、子育て虐待防止の電話相談・メール相談の分科会を行っていますが、民間団体の電話相談員に比べて公的機関の電話相談員の研修の機会が少ないことが分かってきました。

そこで、今回は民間団体がこれまで培ってきた電話相談のノウハウと新たに開発したメール相談のノウハウを学んでいただき、それぞれの機関での相談活動の質の向上を目指しました。今回の参加者は25人でしたが、東京の電話相談養成講座と愛知のメール相談についての講義をうけていただきました。

日本で虐待防止民間団体の活動が始まり23年が経過しました。この間、子どもの虐待に対する市民の意識も向上し、行政の対策も進んでいます。しかし、子どもの虐待の事例は増えるばかりです。

今年の民間団体フォーラムは最近になく参加者が少なく25人でした。最初に、宮崎県の職員を早期退職し、子ども虐待防止を訴えて全国をマラソンで回っている甲斐英幸さんから全国の民間団体の報告を聞き、甲斐さんの熱い思いに拍手を送りました。

その問題提起では、全体的に民間団体が活力を失っており、今後どのような活動ができるのかを話し合いました。

さらに、本年9月に行われる「第20回 ISPCAN 子どもの虐待防止世界会議名古屋」に向けて、世界の民間団体との連携を行うよう話し合いました。

毎年民間団体としてパネル展示を行っていますが、パネル展示会場に来る民間団体のメンバーも毎年減少しています。これらの実態を考えると、民間団体の活動を継続的に進める仕組みや人材が必要だと言えます。第20回 ISPCAN 子どもの虐待防止世界会議名古屋ではできることなら、世界のNPOに参加していただき、各国のNPOの活動から学び日本のNPO活動の今後について何らかのヒントが得られるようにできればと考えています。



日本子ども虐待防止学会信州大会報告

松本は寒かった、でも信州の人は温かった！

1日目は松本市民芸術館、たくさんの笑顔が出迎えてくれました。2日目は信州大学松本キャンパス、教室は暖かいけれど校舎間の移動は寒くて、いただいたお味噌汁、使い捨てカイロ、ひざ掛け布の暖かさが身にしみました。帰りのシャトルバス乗り場までの道は、10mおきぐらいにトーチを持ったボランティアさんが誘導してくださり、心強かったです。

さて、私は分科会「施設での安全パートナーングの実践―子どもと家族を中心に据えたアプローチの可能性―」で、衆善会乳児院での家族支援と里親支援の実践を報告しました。共同演者は、岐阜の児童養護施設白鳩学園の永井健さんと、愛知県一時保護所の千賀則史さんです。安全パートナーングとは、「ブランド」「ビジネス」として2013年からライセンス化されたサインズ・オブ・セイフティ・アプローチから離れ、もっといろいろな方法を統合して、子どもの安全のために家族や子どもとパートナーになって取り組むケースワーク手法です。この手法では、家族や子どもの力を引き出すために、質問することで家族や子どもに考えてもらい、紙やホワイトボードに書いて見える化し、子どもや家族を含む広い範囲で情報とプランを共有します。

もう一つやらせていただいたのは、教育講演「本当は子どもとどんなふうに暮らしたいの？ 子どもの安全のために、家族の力を引き出す方法」です。ここでは、安全パートナーングの手法を紙芝居「花ちゃんの安全づくりの旅」で紹介した後、福岡児童相談所の多田薫さん、滋賀県の要対協スーパーバイザーの中川泰彦さんに、実践を報告していただきました。お二人とも、家族にある安全や強みをしっかり把握したうえで「子どもに起きるかもしれない心配なこと」「安全ゴール」を具体的に述べる安全パートナーングの枠組みが、難しい支援を支えることを強調されました。

(井上直美)

国際プログラム

「原発事故、震災、戦禍の中で生き抜く子どもたち―極限かでの子どもの権利について考える―」

まず、チェルノブイリ事故の医療支援活動を1996年より5年半にわたりペラルーシ共和国で行ってきた、開催地松本市の市長の菅谷 昭（医師）の講演。原発事故により甲状腺癌を発症した子どもたちの身体的・精神的苦痛がいかにも大変なものであったか、知ることができた。

菊地祐子（東京都立小児総合医療センターの児童精神科医）の「東日本大震災における子どものこころのケア」の講演の後、イラクの児童虐待について Lika' a Fasih Yaquob Al Kzayer 医師が講演された。イラクでは多くの子どもたちがこの20年間、戦争や制裁措置、外国による占領などにより引き起こされた重大な人権侵害にさらされている。特に印象的だったのは、劣化ウラン弾の影響である。先天性心疾患の発症率がヨーロッパの13倍、神経系の奇形は33倍といわれている。

戦争や原発事故により、日本だけでなく、世界の子どもたちが悲しい思いをしている現実を知り、私も視野を広げて、子どもたちの笑顔について考えたいと思った。

(今西洋子)

分科会報告

家族支援・これから

分科会は寒風が吹き抜ける信州大学で行われた。大学の門を入ると、ボランティア・スタッフの方たちが木の椅子が冷たくないようカラフルなふわふわ布を配布していた。

さて、今回、私は2つの分科会に参加した。一つは「児童虐待の親支援プログラム導入及び運用に当たっての現状と課題」、もう一つは「社会的養護のもとで暮らした児童のその後—施設退所児の暮らし・困難・支援について」である。どちらの分科会も入りきれないほど盛況だった。どちらも紹介したいが、今回は以下の思いから前者の分科会について報告をする。

1996年からCAPNAで行っているSSCグループの参加者が少なくなっている。近々では開設以来の参加者ゼロであった。それは何故だろう。親側のニーズはこういう場にはないのだろうか。今、民間団体は親支援についてどのような取り組みを何行えば良いのだろうか。

ここでは児童相談所で行われている親子関係再構築支援の取り組みについての報告だった。全国の児童相談所調査の結果、116ヶ所の児童相談所で親支援プログラムを実施している。支援プログラムを実施している2つの児童相談所の実践報告がなされた。

神奈川の児童相談所の鈴木氏は、「危機介入して、家族支援をして、家庭復帰を判断することを同一の機関がせざるをえない実態」を「危機介入から始まる家族支援」と述べた。支援の過程でアイデンティティを揺さぶられるが「家族がプログラムを求めている」と語った。そのなかで親が主体的に取り組む支援プログラムの重要性があげられた。さいたま児童相談所の野口、池田氏からは、初動からの家族支援の必要性等が課題としてあげられた。また、家族から見た有用性が述べられた。

これらの報告から、児童相談所が親支援を積極的に取り組んでいることがリアルに理解できた。一方、保健所でも育児不安の強い母親への支援を様々な形で行っている。女性相談支援機関等でも実施されている。つまり、行政が率先して親支援に取り組んでいるのだ。

改めて、これらの現状をきちんと分析し、SSCグループの在り方と必要な支援を検討する 때가来た と強く感じた。

(小久保裕美)

CAPNA 新年会をしました!

ニュースレターの「新年会」の記事を見て、長く会員をしていますが、何年か前に総会に行ったとき、会報を読むだけになってしまっている、実際に活動して見える方とお会いできたら、と思い申し込みました。皆さん顔見知りの中ですごくドキドキしましたが、ある自主グループの託児などすることはあっても、普段児童福祉の現場に接する機会がほとんどないので、いろいろな世代や立場の方が、自己紹介を含めてお話しされるのを興味深くお聞きしました。

10年くらい前、大会で国際会議場へ行った時、少し参加したという程度だったのですが、熱気を感じた記憶がありました。今年9月に大会があるという事、これもニュースレターで読んで、自転車でいける所に住んでいる幸運?その大会について知りたい、という思いもあって新年会に参加し、皆様の意気込みを感じました。

日々の活動もない会員ですが、会費納入をすっかり忘れず、またニュースレターなどで活動の様子を知り、できるだけ具体的活動に足を運べる一年にしたいです。

(森崎典子)

2014年1月19日、アイリス愛知においてCAPNA新年会が開催されました。兼田智彦理事長をはじめ37名の仲間たちが集まり、サプライズの出し物もあり楽しい交流の場となりました。

今年は9月14日から17日まで名古屋国際会議場において「第20回子ども虐待防止世界会議名古屋2014 (XXth ISPCAN in NAGOYA)」が開催されます。この世界会議は「第20回日本子ども虐待防止学会 (JaSPCAN) 学術集会」を兼ねており、CAPNAにとっては2000年あいち大会以来の地元開催です。世界会議に向けてCAPNAが中心となり「あいち名古屋運営委員会 (仮)」を立ち上げます。地元の力を結集し世界会議をぜひ成功させましょう!

下記の写真で兼田さんが抱えているのは「ISPCAN名古屋2014」のキャラクターのマスコットです。名前はまだまだなく、性別も不明です (笑)。

(名古屋市立大学 准教授 谷口由希子)

「とってもなかよし2羽のことり、こちらがピッピーでこちらがチッチ、とんでけ〜ピッピーとんでけ〜チッチ・・・はいお話を始めます」の手遊びから紙芝居「ひよこちゃん」を演じてしまいました。CAPNA新年会でのこと・・・。

そういえば事務局会計に入ってから、総会で朗読劇「さっちゃん〜」を演じ、保健師役を体験、CAPNAホットラインで受けた相談から虐待がわかり、さっちゃん、おかあさんをどう支援対応するか行政、市民活動のかかわりを描いたものでした。もちろん故祖父江さんの作品です。啓発活動にこんな形もあるのだと驚いたことを思い出しますが、今は「ハーレーサンタイラン」で子ども虐待防止を伝え、大須観音でホットラインカードを特に若者たちに手渡すことができ、(サンタに扮することで気軽にもらってくれることが判明! たくさんの方のマスクにホットラインカード貼付をホットラインスタッフのみなさんにお手伝いいただきました) また、あたらしい啓発活動に広がりを感じています。

私が事務局会計担当でスタートしたときに心細かった(体型と正反対なので...) 想いを故上野さんに(設立からのスタッフ) つぶやいたことがある、「なに言ってるの、CAPNAの仲間だよ」と、さらっと言ってくれたことを思い出す。なんと心強かったことか。養成講座を経てホットラインの先輩達に出会い、本当に厳しく優しく助言いただき今に至る。今回の新年会では、理事さんも新しい方が加わり、ホットラインスタッフも10期まで広がり、会員の方の参加もあり、世界会議に向け“仲間”を実感したひとときとなりました。どんなことをやるかシェアできると絆も深まるだろうなあ。

電話の向こうにどんな想いを話しているか、察知することの大事さも学んだ、スタッフのそれぞれの活動、経験、学習を活かしながら現場の強みを感じ自信をもってやっといこう、小さい人のためにがんばるぞ。

(ホットラインスタッフ 一柳三知代)



ACCJ

ACCJ（在日米国商工会議所）より寄付をいただき、今年度は2013年12月7日と2014年1月15日に2回RIFCR（リフカー）研修を行いました。この研修は“性虐待初期対応”の研修です。「誰を」「何が」という事を被害者から聞き、警察、児童相談所に通告するための面接方法です。

CAPNAでは、RIFCR研修のトレーナーがいますので、子どもと多く接する機会のある方が多く参加されていました。

研修時間は午前9時から午後6時までと長丁場ではありますが、参加者の皆さんは一生懸命積極的に講義を受けておりました。

遠方からの参加者も多く、このリフカー研修の大切さを実感しました。



第20回ISPCAN世界大会・第20回JaSPCAN学術集会 「子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014」への参加と寄付のお願い

2014年9月14日（日）から17日（水）の期間、名古屋国際会議場でISPCANとJaSPCANの大会が実施されます。その会に先立って13日（土）にはユース・フォーラム（ユース・プログラム）が行われます。

テーマ「子ども中心の社会に向けて：過去から学び、未来に向けて行動しよう」
サブテーマ

- ① 子ども虐待に対応する社会制度の発展と挑戦
- ② 世代間連鎖を断つ子どもと家族ケア
- ③ 妊娠期からの親子支援
- ④ 子どもの虐待の予防と虐待の被害者の治療など、虐待対応に関わる機関・人材の育成
- ⑤ 災害の被害を受けた子どもたちのための社会制度の開発

これらのテーマのもとに演題募集が行われています。また、参加募集も行われます。

CAPNAは、現地委員会（委員長杉山登志郎）において13日のユースプログラムと基金委員会、NPOフォーラム、おもてなし、資金調達、広報等に関わります。皆様のご支援とご協力をこころよりお願い致します。またボランティア・Tシャツ、バッチの販売等の協力もお願いしたいと考えています。



最近の活動の状況

◇電話相談

子どもの虐待防止ホットライン・あいち
2013年度（10月～12月末日）電話相談結果報告

① 総受信件数 871件(4～12月末日) ＜総件数の内訳＞（10～12月末日）

1) 相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
女性	3	36	55	51	45	6	62	258
男性	1	2	3	1	1	0	12	20

2) 利用回数

初回	継続
166	110

3) 相談時間

～9	～19	～29	～39	～49	～59	60分以上	平均時間
41	48	46	33	47	27	36	33分

4) 被虐待経験の有無

あり	なし	不明
50	126	102

② 内容別件数

虐待（含む危惧）	50
18歳以上の虐待	60
育児不安	80
マスコミ・問合せ	15
その他相談	73

虐待の型

身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
18	13	5	4	70

「雑感」

土曜日 G Y・I

2月16日は相談員の必修研修である、曜日隔てなく一堂に会する年に1度の日である。毎年研修を楽しみにしているが、今年は研修を企画、運営する当番となった。月に1度のピアカンファレンスの日に早めに集まり、曜日グループの皆さんと役割分担や印刷物の準備等を行った。大勢いると心強い。考えてみると曜日グループでの共同作業は初めてのことだ。これまでリーダー会にお任せしていた必須研修を、自分たちで作りに上げている実感があった。人間、意思の疎通を図るには一緒に一つのこと成し遂げるのがよい。皆と一緒にピアを行い、皆と一緒に研修を作り上げ、皆と一緒に電話相談を続けていく。電話相談に完成はないし、成し遂げることもできないだろうが、皆がいるから折れそうなところを受け止めてもらえるし、電話相談も続けていける。これからも、人という文字のように支え合いながら、ゆっくりと行こう。

◇メール相談受信件数 4月～1月

月	受信件数	内 虐待相談
4月	49件	37件
5月	88件	71件
6月	74件	52件
7月	71件	61件
8月	94件	79件
9月	62件	50件
10月	61件	45件
11月	49件	37件
12月	82件	64件
1月	82件	57件
合計	712件	553件

◇10月から2014・1月までの行事

- 10月6日(日) 虐待防止世界会議2014名古屋子ども会議
場所：アレックスビル
- 10月8日(火) 施設見学(あかつき学園)
- 10月9日(水) 守山区役所・守山北中学校地区青少年推進会議
「児童虐待にならないための子育て～しつけと体罰の境界～」
講師：小久保裕美 場所：守山北中学校
- 10月11日(金) 守山区役所・森孝中学校地区青少年推進会議
「児童虐待防止のために地域ができること」
講師：伊藤俊典 場所：森孝中学校
- 10月19日(土) えびす祭り(オレンジリボン運動・CAPNA 啓発事業)
～20日(日) 場所：名古屋市中区錦長者町
- 10月21日(月) 熱田区人権講座「子どもの笑顔のために」
講師：兼田智彦 場所：熱田区ホール
- 10月29日(火) 平成25年愛知県要保護児童対策地域協議会 出席：木村剛
- 11月12日(火) 施設見学(里親)
- 11月14日(木) 平成25年度愛知県児童虐待対策セミナー「子どもを守るネットワーク～より有機的なネットワークの構築と活用をめざして～」
講師：中板育美(日本看護協会常任理事) 場所：刈谷市中央学習センター
- 11月18日(月) 愛知県児童虐待予防対策委員会 出席：萬屋育子
- 11月24日(日) 虐待防止世界会議2014名古屋子ども会議
場所：東横イン
- 11月28日(木) 日本保育サービス株式会社
～29日(金) 「子ども虐待の現状と保育所での役割」
講師：兼田 場所：住友生命千種ニュータワービル17F
- 12月6日(金) SBS 講義(揺さぶられっこ症候群)
講師：今西洋子 場所：南区役所
- 12月7日(土) RIFCR 研修(性虐待初期対応研修)
講師：今西洋子、早川真理、井上光子、斎藤美紀
- 12月11日(水) 名古屋市要保護児童対策地域協議会 出席：隈元真理子
- 12月15日(日) 虐待防止世界会議2014名古屋
場所：KKR ホテル名古屋
(イスブカンよりジュリーさん、キャンディスさんを迎えて)
- 12月23日(月) トイラン名古屋(オレンジリボン運動)
- 12月27日(金) シェルター支援会議

2014

- 1月15日(水) RIFCR 研修(性虐待初期対応研修)
講師:今西洋子、早川真理、井上光子、斎藤美紀
- 1月19日(日) 虐待防止世界会議名古屋2014子ども会議
場所:アレックスビル
- 1月19日(日) CAPNA 新年会 アイリス愛知12階グランシャリオ
(37名参加)
- 1月29日(水) 平成25年度自殺ハイリスク者対策モデル(要保護母子関連対策)事業
「家族療法の視点から学ぶ自殺ハイリスク者支援」
講師:平木典子 場所:つながれっと NAGOYA



次の皆さまからご寄付をいただきました。
お礼申し上げます。
(2013.10～2013.12、順不同、敬称略)

- | | | |
|--------|------------|------------------|
| ・萬屋育子 | ・前島美津枝 | ・伊藤俊典 |
| ・矢満田篤二 | ・岡田尚子 | ・廣瀬治代 |
| ・塚崎真澄 | ・朝見巴幸 | ・服部恵子 |
| ・青松加幸 | ・今西洋子 | ・小久保裕美 |
| ・細田清美 | ・在日米国商工会議所 | ・競朗子 |
| ・木澤和子 | ・森慶子 | ・白石淑江 |
| ・石川知子 | ・作田久男 | ・田崎淳子 |
| ・井上光子 | ・西牧洋子 | ・名古屋 SORA ソンタクラブ |
| ・柴田美智子 | ・木村剛 | ・山岡亨 |
| ・塩出澄子 | ・伊藤毅 | |
| ・早川真理 | ・菊島正雄 | ・匿名希望7名 |

新入会員

(10～12月分 計19名 敬称略)

- | | |
|-----------|-----------|
| ・大竹幸子(賛) | ・村上かつ(賛) |
| ・藤野育代(賛) | ・山田昭義(賛) |
| ・石田誠一郎(賛) | ・武笠まちえ(賛) |
| ・入江美波(賛) | ・山岡亨(賛) |
| ・山内尚子(賛) | ・森慶子(賛) |
| ・江戸徹(賛) | ・加藤純利(正) |
| ・鬼頭義徳(賛) | ・柴田昇昭(正) |
| ・下村明子(賛) | ・矢野綾乃(正) |
| ・鈴木妙子(賛) | |
| ・堀田和宏(賛) | ・匿名希望1名 |

事務局たより

事務局 兼田 齋藤 水野

朝夕はまだ寒い日が続きますが日中は暖かい日も多くなり、春がもうすぐといった感じですが。新年会には沢山の方たちとお話することができました。参加いただきました皆様ありがとうございました。今年度を振り返りますと、本当に「あっという間」だったというのが正直な所です。

CAPNAに関わる皆様・理事の皆様・電話相談員の皆様と共に20周年目のCAPNAの活動も盛り上げていきたいと考えておりますので、今後もどうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

ISPCAN 世界大会と JaSPCAN 学術集会在今秋9月に名古屋で開催されます。現地としては「ユース・プログラム」「NPO フォーラム」「広報」「資金調達」「おもてなし」等を担当することになりました。充実した大会になるように会員の皆様の、参加と応援をお願いします。今回の号は松本大会の振り返りを中心テーマにしました。松本から名古屋へバトンを引き継ぐ思いを新たに、「過去から学び、未来へ向けての行動」の一步となればと思っています

(小久保記)